

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	富士見市立みずほ学園		
○保護者評価実施期間	令和7年2月25日 ～ 令和7年3月14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	令和7年3月10日 ～ 令和7年3月21日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・手厚い職員配置によるきめ細やかな療育。	・職員配置基準を児童2人に対して保育士、児童指導員等を1人として（国基準は児童4人に対して職員1人）、児童の安全を保障すると共に、個々の児童に合わせたきめ細やかな療育を実践している。	・療育内容の更なる充実を図れるよう、内部・外部の研修等で学び合い、療育の質の向上を図っていく。
2	・家庭との連携や保護者支援を大切にした療育。	・低年齢児（2歳児以下）や新入園児の場合は親子通園を実施し、子どもと共に通園してもらう中で保護者の不安に対して助言をしたり、子どもとの関わり方を学んでもらうようにしている。 ・連絡帳を通して園での子どもの様子や成長の様子を伝えたり助言をしたりする他、必要に応じて電話連絡や臨時の個人面談などで保護者への支援を行っている。 ・定期的な保護者会、講演会、懇談会等を通して、保護者が学べる機会を設けている。	・引き続き、保護者が子育てについて学べるよう、講演会、懇談会等の内容を検討していく。 ・保護者同士のつながりを深め、支え合える仲間づくりができるよう支援していく。また、きょうだい支援のあり方について検討していく。
3	・様々な専門職と連携した療育。	・臨床心理士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士の専門職を配置し、個別な支援だけでなく、専門職と指導員との連携を密にし、日常の療育に活かすようにしている。	・引き続き専門職との連携を密にし、指導員のスキルアップを図って日常の療育につなげていくよう、専門職を交えた内部研修の機会を充実させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・就労している家庭及びその児童への支援が十分にできていない。	・療育時間が午後3時までであるため、保護者が就労している場合は利用が難しいことがある。 ・低年齢児は親子通園が基本だが、保護者が就労していると親子で通うことが困難であり、利用が難しいことがある。	・療育時間の延長については検討を要することから、巡回相談や外来療育（STやPTなど）、保育所等訪問支援等、別の形での支援を強化していく必要がある。 ・親子通園は親支援のために必要なものと考えてるが、就労している保護者が増加している事を鑑み、柔軟な対応も検討していく必要がある。
2	・職員の勤務時間の違いにより、職員間のコミュニケーションが不足してしまうことがある。	・人数は足りているが、短時間勤務の職員もいるため、児童の登園前、当園後の時間の職員間の話し合いが十分にできないことがある。	・クラスごと会議の曜日を決め、児童がいる時間内に他のクラス職員に協力をしてもらいながら、会議の時間をしっかり確保していく必要がある。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	富士見市立みずほ学園					公表日	令和 7 年 3 月 31 日		
						利用児童数	2 4 名		
						回収数 1 7 名（児童数 1 8 名）			
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13	4			・ 広くて開放感があって過ごしやすいと思います。 ・ 体を使って遊んだり、手を使って工作したり、様々な活動のスペースがあると思います。 ・ 活発な子と肢体不自由児が同じ部屋にいるため踏まれそうになることがある。 ・ 遊具がもう少しあると良い。	子ども達が安全に過ごせるよう、活動スペースについて工夫や配慮をしていきます。遊具については検討していきます。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	15	1		1	・ 子ども 1 人に対して十分な先生がついてくれていると思う。 ・ すぐに対応してくれています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15			2	・ わかりやすい構造であると思います。バリアフリー化については気づけなかった。	今後も子ども達が安心して過ごせるよう、特性に応じた環境作りに努めていきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	1			・ 廊下、トイレが寒すぎると思いました。 ・ 心地よく過ごせています。 ・ とても良い環境だと思います。	冬場のトイレについて、暖房器具の設置を予定しています。	
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	15			1	・ 親と一緒に子どもを理解し、成長させてくれると感じています。 ・ 子どもの特性をしっかり理解し、子どもに合った支援をしていただけています。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15			2		支援プログラムをホームページにて公表しております。支援プログラムを基盤としつつ、個々の子どもに合わせた療育を進めていきます。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	17				・ 子どもにあった支援計画だと思います。 ・ 保護者への説明もあり、わかりやすいし、作成されていると思います。		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	2		1		児童発達支援ガイドラインに沿って、個別支援計画には本人支援、家族支援、移行支援、地域支援等の目標を設定しています。 今後も、個々の子どもに合わせた具体的な支援内容を設定してまいります。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16	1			・ 季節ごとの制作物や楽しい楽曲など、とても喜んでいます。 ・ 毎回色々な活動をしているので工夫されていると思います。	引き続き、活動プログラムが固定化されないよう、取り組みを工夫していきます。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	17				・ 幼稚園と交流する機会があります。 ・ 他の園との交流では楽しく過ごせたようです。	引き続き、保育所交流や幼稚園交流、みずほ交流（みずほ学園に保育園児が来る交流）を実施していきます。	
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17				・ しっかりと説明していただきました。		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17				・ 分かりやすく説明していただきました。		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15		1	1	・ もっとほしかったです。 ・ いつも助言をいただいています。	今後も、保護者の方に学ぶ機会を提供できるよう、講演会や懇談会等を実施していきます。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	17				・ きめ細かく見て対応してくれているのでとても心強い。 ・ お便り帳を通して、健康や発達などについてお話をすることができて助かっています。 ・ 連絡ノートや電話でお知らせしてくれています。 ・ しっかりと伝え合い、理解できていると思います。	ご家庭と園との共通理解がとても重要であると考えておりますので、引き続き、きめ細かな情報交換を行うよう努めていきます。	

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	17				・悩みに対し、具体的な対策方法を教えていただいて、とても助かっている。 ・面談に加えて電話や連絡ノートでも相談にのってもらえて助けられています。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17				・入園前から私のことも相談し、いつも優しく寄り添ってくれた。 ・とても寄り添って支援していただけていると思います。 ・会うたびに声をかけてくださいます。	引き続き、ご家族の不安や悩みに寄り添うことを大切にしていきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	6	1	2	・園児が減っている中で、父母会の負担が大きいのと感じる。（障害保険の1人当たりの負担が大きいのなど） ・降園時間を延長できないので兄弟児の予定調整が難しく、自費で預けたり移動支援を利用せざるを得ない。 ・保護者の交流の機会は設けられています。きょうだいの交流についてはわからない。 ・父母会は年に何回かありますが、きょうだいの交流は少ないと思う。	父母会は、保護者の方々の自主的な組織ですが、父母会の役割や内容については、引き続き話し合いを持っていきたいと考えています。きょうだいの交流については、今後機会を増やせるよう検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	1		1	・相談については、常に迅速であると感じている。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16	1				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	9	3	3	2	・手紙で情報を発信されている。	定期的なクラスだより、行事予定表などで情報を発信しています。今後はホームページを活用した情報発信の充実にも取り組んでいきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15		1	1	・文集の冊子が園外に配布されているのは知らず、個人情報を載せていた。	引き続き、個人情報の取り扱いについては事前に十分な説明を行い、同意を得て取り組んでいきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13	4			・時短帰宅のため未実施。	非常時等の対応や避難訓練の実施等について、より丁寧に保護者の方への説明を行っています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	1		1	・定期的に訓練が行われていると思う。	
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	1		2		子どもの安全のための計画について、今より丁寧に保護者の方への説明を行っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1			・ちょっとした怪我でも伝えてくれるので安心して過ごさせています。 ・少し怪我をした時に、状況をとても詳しく教えてもらった。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17				・とても安心して通所しています。 ・楽しかった！といつも話してくれます。 ・とても居心地が良いようで、安心感をもって通所しています。	引き続き、子ども達が安心して楽しく通える環境づくりに努めています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17				・毎日登園したいと言うほど好きです。 ・毎日行きたいと楽しみにしています。 ・とても楽しみにしています。 ・毎日楽しんで通所しています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	1			・大満足です。 ・とても満足しています。 ・指導時間をもう少し長くしてくださると働く親としてはありがたい。 ・通所するようになってから、できることが増え、通所して良かったと思う。 ・いつも寄り添っていただき、とても満足しています。 ・通所しながら成長を感じられて、とても嬉しく思います。	今後も一人一人の成長を促せるよう、家庭との連携を大切にしながら取り組んでいきます。就労しているご家庭やそのお子さんへの支援のあり方については課題として捉えておりますので、今後検討していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		富士見市立みずほ学園	公表日 令和7年 3月 31日			
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14		・ホールの使用などは、各クラスで調整して利用したり、取り組みによっては合同で利用するようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13	1		・人数的には足りているが、正規職員が少ないため、非正規職員との業務の分担についての検討が必要。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	2	・その日の予定などが子どもにとってわかりやすいよう、写真を提示するなどの視覚支援の取組みをしている。 ・集中すべき時に集中できるよう、おもちゃの目隠しをしたり、園児の座る向きを検証するなどの工夫をしている。	・ロッカーの使い方など、子どもにとってより分かりやすくなるよう工夫していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	1	・設計段階から、園児の活動に配慮した工夫がされ、園児が心地よく安全に過ごせる空間になっている。 ・毎朝全職員で園舎内の清掃及びおもちゃの消毒を行っている。	・園児用水道の水の出が悪い、窓枠に歪みがあり開閉できない等、修繕の必要な箇所があるため、優先度を検討しながら計画的に修繕を進めていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14		・子どもの状況に応じて、人のいない（または少ない）場所で気持ちの安定を図れるよう支援をしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	13	1	・毎日の支援終了後の反省会、年間の中間反省、年度末の反省を行い、振り返りや目標設定を行っている。 ・勤務時間により全体会への参加が難しい職員はクラス会議で参画するようにしている。	・短時間勤務の職員もしっかり参画できるよう、参画方法を工夫し、留意していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		・保護者向け評価表は、回覧や会議での報告などで全職員が把握し、その後の業務につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13		行事の後の保護者の感想や、年度末の事業のアンケートなど、保護者の意見は全て職員間で確認し、その後の業務につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14		・研修の情報は職員間で共有し、非正規職員も含め、全職員が研修の機会を得られるようにしている。 ・研修に参加した職員からの報告会を設け、他の職員も学ぶ機会を設けている。 ・内部研修も年間を通して実施している。	・引き続き研修の情報を共有し、各々の職員がスキルアップを図れるよう、職場環境を整えていく。 ・内部研修について、計画的に実施し、内容を充実させていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14		・計画作成にあたってはクラス担任も関わり、共通理解のもとで検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	1		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14		・令和6年度に個別支援計画の書式の改定を行い、ガイドラインに沿った内容を設定できるものとした。	・個別支援計画の内容について、子どもの状況に合わせて適切な項目が設定できるよう、引き続き職員間の情報共有、意見交換を進めていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	1	・毎週クラス会議で、活動内容を検討している。 ・他施設との併用児もいるため、活動の曜日を固定化しないよう日課を工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	1	・出勤時間の違いやバス添乗等により十分な打ち合わせ時間が取れないこともあるが、短時間で要点を押さえて重要なことは確認し合っている。	職員の勤務時間が違うため、職員間の打ち合わせや振り返り、意思疎通を図るための時間をしっかりと確保していくことが課題。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	13	1	・勤務時間の違いがあって支援終了後の振り返りが難しい時もあるため、午睡時間など時間を見つけて振り返りを行うようにしている。また、週1回のクラス会議の中で必要な共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	13	1	・毎日個々の子どもに関するケース記録を記入している。 ・記録は、行ったことや子どもの様子のみでなく、取り組みや支援内容についての検証も含めていくようにしている。	・記録は、取り組みや支援内容についての検証も含めていくようにしているが、より支援の改善につなげられるよう意識して記入していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	13	1	・定期的な会議に参加して連携を図っている他、必要に応じて連絡を取り合って支援内容を協議するなどの連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14		・全ての併用児について、担任や児童発達支援管理責任者が併用先施設に出向き、児童の様子の確認や併用先職員との話し合い等を行い、連携を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14			
	28	(28～30は、センターのみ回答)	13	1		園児が利用している児童発達支援事業所との連携は取っているが、それ以外の事業所との連携や支援は十分ではないため、地域全体への支援について今後の検討が必要。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	13	1		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	13	1		
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14		・定期的な交流を実施している。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	13	1	・日常的には連絡帳を活用して伝え合い、重要なことや連絡帳を通じて保護者から相談があった際などは電話で連絡を取るようになっている。	家庭との連携や家での様子を聞くことは大切なため、連絡帳をさらに有効活用できると良い。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12	2	・プログラムは実施していないが、保護者向けの懇談会や先輩保護者との座談会などを通して保護者支援を行っている。	・今後、ペアレントプログラムの実施を検討していく。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14		・入園後最初の保護者会の際に、管理職から説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	14			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14		・日常的には連絡帳を活用して助言し、重要なことや連絡帳を通じて保護者から相談があった際などは電話で連絡を取るようになっている。また、定期的な個人面談の他、必要に応じて随時面談を実施している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12	2	・運動会や秋まつりなどのイベントは家族の参加を奨励し、保護者同士やきょうだい同士の交流の機会を持てるようになっている。 ・必要に応じて父母会（父母の自主組織）の会議に参加したり、父母会との話し合いを持ったりしている。	・きょうだい同士の交流は多くはないため、今後の検討が必要。 ・親子通園時や一部の行事はきょうだいの参加は遠慮いただいているが、預け先の問題などがあるため、今後の検討が必要。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14		・直接すぐに会えない場合は、連絡帳や電話などを利用し、できる限り迅速に対応するようになっている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14		・年間予定表、月の予定表、クラスだより、園だより等を定期的に発行している。	・ホームページには活動概要は載せているが、新しい情報などについてはあまり発信していないため、今後の活用を検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14		・個人情報について常に意識し、園舎内の掲示物や、発行する文集の内容なども検討してきた。	・個人情報の取り扱いについて、より具体的に保護者に説明し、同意の有無を確認していく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14			
非 常 時 等 の 対 応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12	2		元々は地域交流を行っていたが、コロナ禍以降取組めていないため、今後は再び地域交流のあり方を検討する必要がある。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14		・年度初めに全職員で確認している。	・保護者に周知しているが、大まかな説明になっているため、わかりやすい伝え方を検討していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14		・毎月避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	14		・持病、服薬状況、予防接種状況について、入園時に健康カードに記入してもらい、在園児も毎年変更がないかを保護者に確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14		・事案があった場合は毎日の反省会の中で必ず報告し、対応及び再発防止を協議している。また、記録のファイルは職員が閲覧できる場所に保管している。	引き続きヒヤリハット事案等を職員間で検証し、事故防止への意識を更に高めていく。

	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14		・虐待防止のための委員会及び研修を定期的に開催している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13		・身体拘束適正化のための委員会及び研修を定期的に開催している。	